

2020年度 学校評価報告書

対象期間： 2019年4月1日 ～ 2020年 3月31日

学校法人 センチュリー・カレッジ
専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー

I. 2020年度 学校関係者評価委員会

2020年度 学校関係者評価委員会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、誌上開催の形式といたしました。「自己点検・評価報告書」に基づく、学校関係者評価委員の学校活動に対する評価・意見を以下のとおり報告いたします。

1. 学校関係者評価委員会

- 松崎 充意 (一般財団法人石川県予防医学協会 理事長)
- 竹内 郁登 (医療法人社団浅ノ川 千木病院 リハビリテーション部長)
- 田中 敬子 (保護者)
- 長谷田 敦志 (公立南砺中央病院 リハビリテーション室主任)
- 田中 茉美 (医療法人社団博友会 金沢西病院 作業療法士)
- 野倉 克利 (医療法人積仁会 岡部病院 作業療法士)

2. 学校関係者評価委員による評価結果

「II. 2019年度 自己点検・評価 及び 学校関係者評 報告書」のとおりに

3. 対象期間

2019年4月1日 ～ 2020年 3月31日

4. 評価項目と評価点数

(1) 評価項目

- 教育理念・目標
- 学校運営
- 教育活動
- 学習成果
- 学生支援
- 教育環境
- 学生の受入れ募集
- 財務
- 法令等の遵守
- 社会貢献・地域貢献

(2) 評価点数

- 4：適切
- 3：ほぼ適切
- 2：やや不適切
- 1：不適切

Ⅱ. 2019年度 自己点検・評価 及び 学校関係者評価 報告書

対象期間： 2019年4月1日 ～ 2020年3月31日

評 価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

1. 教育理念・目標				
自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
1-(1) 学校の理念・育成人材像・教育目標は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3.2	↘ 3.0	学 校	<p>評価 3.0</p> <ul style="list-style-type: none"> 感動の共有が何を指すのか分かりにくい。 ホームページでわかりやすく示されているが「建学の理念」「テーマ」「教育理念」と統一されていないようにも受け取れると思いました。 教職員の理念の理解度にばらつきがあるということなので、その理解度を深めるために、しっかりとファシリテートできる方(学校役員の方や専門の講師)を中心にグループワークなどを実施したら良いと思います。 新型コロナウイルス感染拡大防止の点から、対面でのアピールは難しいと思われませんが、ホームページや SNS を活用しておられると思います。 ホームページや SNS 等で学校が知らせたいことを分かりやすく UP している。 封書で大切なお知らせを保護者へ送ってくださることはとてもありがたいです。 作業療法学科は全国的に同様な状況に置かれていると思うので更なる工夫で難局を乗り切っていただきたいです。 昨今、現場で度々話題に挙がる接遇、社会人基礎力を重点的に取り組まれている。
1-(2) 医療福祉業界の要望・意見等を踏まえた学校の将来構想を策定しているか	3.0	→ 3.0	学 校	
1-(3) 学校の理念・育成人材像・教育目標などが学生・保護者等に周知されているか	2.9	↘ 2.8	学 校	
1-(4) 育成人材像・教育目標は、医療福祉業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.1	→ 3.1	学 校	
【課 題】	【今後の改善方策】			

1-(1)	<ul style="list-style-type: none"> 学校の理念は定められているが、教職員の理解にばらつきがある。 各科の育成人材像、教育目標は高校生や医療従事者以外にもよりわかりやすい理念、教育目標が必要である。 <p>高い最終目標までに、学生の能力に合わせた着実な目標を設定していく必要性を感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ・パンフレット等で医療福祉社会の今のニーズ、それに向けての本校が取り組んでいる育成人材像を具体的に示す。 学校の理念以外は、中・長期目標を設定するなどして定期的に更新を行う。また指定規則改正を機に教育目標を再検討する。 学科として目指すべき方向を話し合い、意見の統一を図る。またその方向性を基に講義内容の詳細や役割分担等を共有する。 <p>現在の学生の状況について感じ合っていることを伝え合い協議する。</p>
1-(3)	<ul style="list-style-type: none"> 学生や保護者への認知度を客観的に測る方法の模索。 第三者に作業療法学科を紹介していくことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種保護者説明会の際に、教育目標等に関する内容を盛り込み周知を図っていく。 ホームページ・SNS等を積極的に活用。 作業療法学科を周知できるような講義・オープンキャンパスについて話し合いを継続し、反映させていく。
【成果・特記事項】		
1-(1)	<ul style="list-style-type: none"> 新カリキュラムの作成作業を通して、教員間で育成像と到達目標について話し合い共有することができた。(作業療法学科) 	
1-(2) 1-(4)	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程編成委員会・臨床実習指導者会議等で外部からの意見をうかがい、指定規則改正に活かした。 就職ガイダンスにおいて実施後のアンケートでどのような人材を求めているのかを概ね把握することができた。 	

2. 学校運営

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
2-(1) 医療福祉分野の職業教育を念頭においた運営方針・事業計画が策定されているか	3.2	→ 3.2	学 校	評価 3.0 <ul style="list-style-type: none"> 職業教育の部分で具体的に何を実施したのか内容が見えにくい。 定期的な委員会開催による自己点検がなされている。 働きやすい職場づくりは最終的に学生への良い教育に繋がるので、教職員がよりいきいきと働ける生産性の高い職場づくりをお願いしたいと思います。 教員の皆様方が効率よく働ける環境になって貰えればと思います。
2-(2) 意思決定機能、指示命令系統は組織機能図において明確化されているか	2.7	→ 2.7	学 校	
2-(3) 前項（意思決定機能、指示命令系統）は有効に機能しているか	2.5	↗ 2.6	学 校	
2-(4) 就業規則は整備され、教職員が常に確認できるようになっているか	2.4	↗ 3.3	事 務 局	

2-(5)	人事、給与に関する規程等は整備されているか	2.9	↗	3.1	事務局	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止策で遠隔講義が行われたり、環境の整備は進んできていると思います。 コロナの影響でICT化がより必要になったと思える。授業の取り組みにも変化が必要だと思います。大変なことかと思いますが、頑張ってもらいたいです。
2-(6)	学校運営に関する情報公開が適切になされているか	3.6	→	3.6	自己評価委員会	
2-(7)	組織体制の整備、情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.8	→	2.8	事務局	
【課題】		【今後の改善方策】				
2-(4) 2-(5)	・文科省の学校における働き方改革の提言による「就業規則」の再点検。	・法律改正や雇用形態の多様化に伴い「就業規則」の確認を行い、必要であれば見直しを行う。				
2-(6)	・試験成績など開示する情報を増やす方向で検討する必要性を感じる。	・試験の開示等、情報公開を行い成績評価の透明性の確保につなげる。				
2-(7)	・学内のICT化推進が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ICT化推進のプロジェクトチーム組成し、組織図に加える。環境開発と教職員への基礎知識の教育、情報共有を推進する役割を担う。 Wi-Fiを整備するとともに、シラバス・学生便覧のクラウドでの閲覧から始める。 				
【成果・特記事項】						
2-(2)	・教務での各担当が細分化されたことで、意思決定機能が明確になった。					
2-(5)	・就業規則は教職員が常に閲覧できる場所に設置され、確認ができるようになった。					
2-(7)	<ul style="list-style-type: none"> 教務事務が配置され、わからない点について質問しやすい環境になった。また、マニュアルが可視化され作業が行いやすくなった。 新しい勤怠システムが導入されたことにより、有休消化状況等、自身で確認できるようになった。 国家試験学習ソフトの活用が業務の効率化にもつながった。 					

3. 教育活動

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
3-(1) 学校の理念・育成人材像・教育目標に沿った教育課程(カリキュラム)が体系的に編成されているか	3.1	↗ 3.2	教育課程編成委員会	評価 3.0 ・外部講師は当院だけでも複数人カリキュラムを担当させていただいており、学外からの知見を積極的に取り入れている。
3-(2) 学科の修業年限に対応した教育到達レベルを明確し、学習時間の確保はされているか	3.2	↗ 3.5	教育課程編成委員会	

3-(3)	医療福祉分野の病院施設や団体との連携により、実践的な職業教育の視点にたった教育課程(カリキュラム)の編成・見直し等が行われているか	3.3	↗	3.5	教育課程編成委員会	<ul style="list-style-type: none"> 指定規則の改正に伴い施設側も学校側も混乱している状況下にあるかと思えます。 新型コロナウイルス感染症対策での、Zoomでの授業や、時間差の授業等、助かります。 外部実習先の確保に奔走されていらっしゃるのを聞き、誠に有難うございます。 教育体制の向上のために、様々な試みがなされていると思えます。 各分野で活躍しておられる本学ご出身の先生方をサポートするとともに、逆に先生方から特別講義をいただく様な道があっても良いかもしれません。 倍率の影響はあれど、国試の合格率は低いと言わざるを得ない。 資格取得に関する指導体制は充分だと思われませんが、学生によっては、何のために金沢リハビリテーションアカデミーに入学したのかな？みたいな学生もいて驚きます。国家試験合格率、就職率ともに100%を目標に、学校だけではなく、学生も意識高くなれるとよいですね。 教職員に対して教育力・指導力を向上するための研修を積極的に行っていただければと思います。それが教職員のモチベーションアップにも繋がると思います。
3-(4)	医療福祉分野の病院施設における実践的な職業教育(実習等)が教育課程(カリキュラム)において体系的に位置づけられているか	3.3	↗	3.7	教育課程編成委員会	
3-(5)	実習や講義等を委託する場合、教育目標及び教育到達レベルを明確にしているか、情報共有を図っているか	3.2	↗	3.4	教務委員会	
3-(6)	授業評価の実施体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	3.4	↗	3.5	教育課程編成委員会	
3-(7)	授業評価結果に基づき、目標設定および授業改善が行われているか	3.1	↗	3.3	教育課程編成委員会	
3-(8)	外部(卒業生、保護者、医療福祉分野の病院施設や団体、地域社会等)からの評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか(アンケート、訪問・会議によるヒアリング等)	3.3	→	3.3	自己評価委員会	
3-(9)	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.0	↗	3.4	教務委員会	
3-(10)	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	3.3	↗	3.5	国家試験対策委員会	
3-(11)	学校の理念・育成人材像・教育目標の達成に向けて計画的に人材(専任教員・非常勤講師)を確保しているか	3.2	↘	2.8	学 校	
3-(12)	医療福祉分野の病院施設や団体との連携において、要件を備えた人材(非常勤講師)を確保しているか	3.6	↘	3.5	学 校	
3-(13)	教職員の専門的知識・技能等を修得・向上のための組織的な取組み(講座・研修の受講、資格取得支援、各種学会・会議への参加等)はあるか	3.2	→	3.2	学 校	
3-(14)	教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる組織的な取組み(講座・研修の受講、専門家による指導等)はあるか	2.8	↗	3.0	学 校	
【課 題】			【今後の改善方策】			
3-(1) 3-(2) 3-(3) 3-(5)	<ul style="list-style-type: none"> 指定規則改正に伴い、カリキュラム編成・実習の進め方を検討中であり、特に実習に関しての情報共有が課題となる。また、改定後に外部からの意見の聴取を行いより良いものにしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習地訪問時、教育課程編成委員会で本校の考えを明示し意見交換を積極的に行い、カリキュラム編成を進める。 各教員の講義内容を把握しそれを踏まえた講義展開を行えるよう、講義構成をテーマにしたミーティングを継続する。 				

3-(6) 3-(7)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価に沿った講義内容の見直しが十分とは言い難い。 ・学生の授業評価だけでは、どこをどのように改善すべきなのか、考える・検討するのが難しい。 ・授業改善や教員の知識・技能の向上は各教員の裁量によるところが大きい。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の授業評価を記入する負担の軽減。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導力の修得・向上のための研修への参加促進を含め、継続的に実施する。 ・こういった授業が模範的な「良い授業」とするのか、教員が統一した理解を持つための機会があると良いと思う。 ・各教員が担当している講義内容を共有し、それぞれがその内容を踏まえた講義展開を出来るように、定期的に講義に特化したミーティングを継続して実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価は、学生負担のため簡便化を検討する。
3-(11)	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員・非常勤講師の人材確保が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長が積極的に人材確保に努めているが、学校全体として取り組む。
3-(13) 3-(14)	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての指導力の修得・向上への取り組みを進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成の視点で、長期的な研修計画を立案・計画書の作成を行い、予算計上を行っていく。 ・医療ではなく教員としてあり方、教育における基本的な技能・態度についての研修へ参加する、または講師を招き学んでいく。
【成果・特記事項】		
3-(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習指導者会議、教育課程編成委員会を通じて現場の先生方の意見を伺いながらカリキュラムの編成・見直しを行っている。 ・カリキュラムの編成についてのミーティングを通して育成すべき人材像や、修得すべき知識・技術の内容見直しや共有が改めて行えたことがよかった。 	
3-(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・病院施設での実践的な職業教育（実習等）において、厚労省ガイドラインに基づき診療参加型実習を導入した。 	
3-(13) 3-(14)	<ul style="list-style-type: none"> ・学費を学校が負担し博士号等の取得のため教員が大学院へ通っている。様々な研修にも参加している。 	

4. 学修成果

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
4-(1)	就職率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか	3.7	↘ 3.4	就職支援委員会	<p>評価 3.0</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学直後の1年次に、これからの人生に対してのモチベーションを上げるような研修を徹底的にすることによって、学習

4-(2)	資格取得率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか	3.6	↘	3.5	国家試験対策委員会	意欲の向上、そして退学者減少に繋がると思います。(昨年と同意見です) ・学生の“やる気”を引き出すために更なる発展を期待しています。 ・北陸以外にも目を向け、就職に力を入れている。
4-(3)	退学率を把握し、その上で低減に向けた具体的な対策を実施しているか	2.5	↗	2.9	教務委員会	・国家試験合格に向けて入学時から準備を進めてほしいです。(合格するにはどのように勉強していけば良いのか…等) 就職に対しても早くから学生の意識を高めてほしいです。
4-(4)	卒業生のキャリア形成(社会的な活躍や評価)を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか	2.7	→	2.7	教育課程編成委員会	・卒後への意識を学生にどう持たせるか、に課題を感じている。同級生や先輩、後輩の間の交流の場が増えると良いかもしれません。
【課題】				【今後の改善方策】		
4-(1)	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの進行上、最初の受験までに学生の就職意識の醸成と準備を万全に整えることが難しく、内定につながらなかった。 昨年度は、採用試験の不合格者が増加した。 				<ul style="list-style-type: none"> 就職活動に対する早期の意識付けと、就職試験に向けての準備をシステム化する。例えば模擬面接を他学科の教員に実施してもらう等。 昨年度の状況を分析し対策を立て対応する。 	
4-(2)	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率の目標値が未達成であった。 				<ul style="list-style-type: none"> 3年間通した国家試験対策の体系化を図る。 3年生後期の講義内容を充実させる。 	
4-(3)	<ul style="list-style-type: none"> 退学事由の多様化により、定型的な対応では不十分である。 				<ul style="list-style-type: none"> 入試課と教務が連携し、入学時から面談やイベントを通じて学生とコミュニケーションを図り心配事や不安要素の解消に努める。 学科の魅力を伝えられる方法を検討していく。 	
4-(4)	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生のキャリア形成は個々の自己研鑽に任せており状況は把握できていない。 卒業生の早期離職が課題だが、離職率を把握できていない。 学生時代より職業観をどのように持たせていくかが課題である。 				<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の来校機会を増やす。講義の依頼、オープンキャンパス等の各種行事で交流を増やす。 在学中から職業観、キャリア形成について、新カリキュラムの「キャリアデザイン学」を活用して指導する。 卒後1年間、職場での満足度等をアンケート調査(グーグルフォーム等)で把握し、早い段階から教員が介入できるようにする。 役割、歴史と変遷、治療理論を整理し、学生への教育内容に活用する。 	
【成果・特記事項】						
4-(1)	<ul style="list-style-type: none"> 早期に就職に関する保護者説明会を行ったことで、保護者の就職活動に対する関心が高まったように思う。(学生を通じて保護者から就職活動に関する質問があった。) 					

	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間、作業療法と介護職の違い・理学療法士との違いを教員皆で伝えてきたことが、学生とやり取りの中に反映されていることが確認できている。(作業療法学科)
4-(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年(2018年度)と比較し、退学者は減少した。 ・家庭での学習環境支援を得るため1年次進級再試験対象者の保護者に再試験案内を発送した。
4-(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤教員として、卒業生が学校に来る機会が増えた。

5. 学生支援

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
5-(1)	学生の進路・就職に関する体制(運営組織、制度)は整備され、有効に機能しているか	3.6	↘ 3.5	就職支援委員会	<p>評価 3.2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の内容が見えにくい。 ・今年度は実習が困難な状況ではありますが、専門性はもちろん、社会性を育まれるよう症例検討形式のカリキュラムも取り入れるなどで就職時に即戦力となってほしいです。 ・社会人経験者の学生も多く、奨学金制度等の整備がなされていることも理由なのではと考えている。 ・学生からの相談に対応できるようスクールカウンセラーなどに定期的に来ていただくことはできないでしょうか？一般論の話となりますが以前より悩んでいる若者は多くなっていると感じていますし、特に今年は新型コロナの影響もあるのでよりフォローアップが大切だと思います。また、卒業生への組織的なフォローアップをお願いしたいと思います。 ・5-(4)に関しては月に2~3回でも学校内でカウンセラーや専門医に来ていただいてカウンセリングをしたりするのも良いかもしれないですね。精神科等は敷居の高いところなので…。軽くおしゃべり程度
5-(2)	学生相談に関する体制(運営組織、面談記録、定期的な実施)は整備されているか	3.4	↘ 3.2	事務局	
5-(3)	学生の経済的支援に関する体制(奨学金制度、減免制度)は整備され、有効に機能しているか	3.0	↗ 3.2	事務局	
5-(4)	学生の健康管理に関する体制(運営組織、健康診断の実施)は整備され、有効に機能しているか	3.6	→ 3.6	事務局	
5-(5)	学生主体の課外活動(学生会活動、ボランティア活動、クラブ活動等)を奨励・支援する体制はあるか	3.4	↘ 3.1	学生会支援委員会	
5-(6)	前項(課外活動支援に関する組織体制)は有効に機能しているか	3.2	↘ 3.0	学生会支援委員会	
5-(7)	学校生活指導・勉学指導への支援は行われているか	3.4	↗ 3.5	教務委員会	

5-(8)	保護者へ学校情報の提供や面談を行い、適切に連携しているか (ホームページ、保護者報告会等)	3.4	→	3.4	教務委員会	で相談できる感じの場所があると良いかもしれません。 ・様々な背景をもつ学生さん達に対応しておられると思います。 ・個人的には学生支援は十分に対処されていると思います。ホームページや SNS 等で普段の学校生活や支援制度を知ることが出来てとても助かっています。
5-(9)	卒業生のフォローアップ体制はあるか (卒後研修、同窓会組織、1年後訪問、ホームページ等)	2.5	→	2.5	学 校	
【課 題】			【今後の改善方策】			
5-(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生相談については、各学科教員が行っているが、学校としての体制整備が必要と感じる。 ・学生が抱える悩み・相談内容が多様化しており、教員では十分に対処できない難しいケースもあるため専門的知識を備えた人が対応する必要があることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生相談室の設置や専門家の支援が受けられる体制を整備すると、学生も相談しやすい環境が整い、教員の負担も軽減するのではないかと。 				
5-(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・精神的に不安定な学生が年々増加し、対応が難しいケースもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識を備えた人材の確保、カウンセリングができる体制づくりが必要である。 				
5-(5) 5-(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・課外活動については学生の自主性を期待したいものの、学業との両立や引継ぎ考えると学生の負担が大きく、教員の支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課外活動が増えてきていることは良いことであり、現在行っている教員の支援を継続し、学生に活動を引き継いでいけるようにする。 				
5-(7)	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会をはじめとした教員の業務が多様化し、学生との時間を取りにくいと感じる。 ・食堂・売店の運営について周知されにくいときがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の組織構成および役割の分担を明確にする。 ・食堂・売店の運営について全職員へはメール等で伝達するとともに、学生への情報提供も速やかに行っていく。 				
5-(9)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生のフォローアップは個別に行われているのかもしれないが組織的な支援体制が不明確で手薄になっている。 ・卒業生の勤務先の移動が多く、同窓会名簿の管理の負担が大きい。同窓会の運営やフォローアップに手が回らない。 ・卒業生の国家試験再受験に対する対応が不十分に感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生のフォローアップは個別で対応するのではなく、組織的に支援できる方法・体制を考える。またホームページに掲載して周知を図る。 ・同窓会主催の卒後研修会を計画的に行い、学校は同窓会の後方支援をする。 ・学内講義や実習で積極的に協力してもらう。 ・ホームページ、SNS等を積極的に活用する。 ・在校生・卒業生、学科を問わず対応していくことが重要である。 				
【成果・特記事項】						
5-(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・就職ガイダンスの実施。 					

5-(3)	・学校独自の「作業療法学科授業料特別減免制度」が新設された。
5-(4)	・教員間で学生の情報共有を行い、対応できるようになってきた。
5-(8)	・保護者説明会の時期を検討し開催した。

6. 教育環境				
自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
6-(1)	3.1	→ 3.1	備品管理委員会	評価 3.2 ・学内のWi-Fi環境も大切ですし、コロナ禍では今後もリモートで勉強ができる環境構築やコンテンツの整備も大切だと思います。 ・教育環境の改善に努めておられると思います。
6-(2)	3.3	↘ 3.2	図書委員会	
6-(3)	3.5	→ 3.5	学校	
6-(4)	3.1	↗ 3.3	事務局(庶務課)	
【課題】		【今後の改善方策】		
6-(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の経年劣化がある。 ・AIを用いた教育を進めるための環境が整っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時期を見ての新規購入や定期的な修理、更新が必要なものに対し中長期的な改修計画を作成し実行する。実行に際しては財務状況の確認を行う必要がある。 ・Wi-Fi環境を整え、購入した教材が有効に使えるようにする。それを用いた授業展開を進めていく。 		
6-(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の充実。 ・現在の教育に必要な図書の系統的に整備が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書専属の委員を決めて図書作業を優先できるようにする。 ・電子図書を含め、さらに整備を進める。 		
6-(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム改正により、受け入れ可能な実習施設の減少が予想される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者講習会等、本校からも周知に努める。 		
【成果・特記事項】				
6-(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・指定規則改正を機に、設備の刷新は進んでいる。またプロジェクター設置の教室を増やした。 ・学内のWi-Fi環境設定を計画中である。 ・ポータブルWi-Fiの導入により、作業療法学科は国家試験学習ソフトの活用で国試対策が個別対応も可能となり、学生が調べものを進めることに重宝している。 			

6-(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の安全管理、災害での安全管理についての学校危機管理マニュアルは現在計画中であり、今年度中に完成する。 ・避難訓練・シェイクアウトを毎年行っている。 ・各種危機管理マニュアルの原案は作成済みなので内容を協議・修正し完成させる。
-------	---

7. 学生の受入募集

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
7-(1)	学生の募集活動において、教育成果・実績等は正確に伝えられているか	3.3	↗ 3.6	事務局 (入試課)	評価 3.2 <ul style="list-style-type: none"> ・学納金以外の経費なども保護者の方に分かりやすく説明できたら良いと思います。 ・少子化の中での学校運営は大変かと思いますが頑張っていたきたいと思います。 ・高校生にリハビリテーションの仕事の素晴らしさを伝えるのはなかなか大変だと思いますが、何とか志願者を確保していただきたいです。 ・少子化による入学希望者の減少対策として、金沢リハビリテーションアカデミーなければ学べないことをアピールできればいいなあと思います。
7-(2)	入学志願者の問合せ・相談に対する体制が整備され、情報提供（育成人材像、資格、学費・教材費、選抜方法）は適正にされているか	3.4	↗ 3.5	事務局 (入試課)	
7-(3)	学納金は妥当なものとなっているか	3.0	→ 3.0	事務局 (入試課)	
7-(4)	入学辞退者の授業料に関して適正な扱いを行っているか	3.7	↘ 3.4	事務局 (入試課)	
7-(5)	入学予定者への入学前課題等の学習指導を実施しているか	3.8	→ 3.8	入試委員会	
7-(6)	入学予定者に対してオリエンテーションを実施し、学校生活のための支援をしているか	3.5	↗ 3.6	入試委員会	
【課題】			【今後の改善方策】		
7-(1)	・各種ガイダンス・説明会などの効果についての数値は報告されているが、配信も行ってほしい。				・学生募集活動の効果を具体的に知り、計画的、かつ効果的な学生募集につなげる。
7-(2) 7-(3)	・実習等の諸費用について、学生や保護者からの問い合わせに即座に対応できないときがある。				・予め、学納金以外の経費を書式化して、オープンキャンパス等での質問に誰でも回答や説明ができるように体制を整える。
【成果・特記事項】					
7-(2)	・学納金の分納については、個々の家庭の状況に応じて対応している。				
7-(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学決定後より早期に学習を開始できるように取り組み、入学予定者の学習状況をインターネットを利用して確認する試みをした。 ・入学前課題は添削と教員のコメントを入れて返却している。 				

7全般	・少子化により、入学志望者のさらなる減少が危惧される。	・興味・希望があれば、オープンキャンパスだけでなく、平常講義・学内実習の見学参加、パラスポーツ大会、球技大会、国試合宿・セミナー等の学事の見学参加を可能にした企画してはどうか。
-----	-----------------------------	--

8. 財務

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
8-(1)	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.7	↗ 2.8	事務局 (経理課)	評価 3.2 ・財務は学生数と直結するので、高校生へのPR活動と共に在学生の中で退学者が出ないように、モチベーションを上げるためにしっかりとしたフォローを行っていただきたいと思います。 ・適切だと思います。
8-(2)	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか、また定期的に確認しているか	2.8	↗ 2.9	事務局 (経理課)	
8-(3)	財務について会計監査が適正に行われているか	3.4	↘ 3.2	事務局 (経理課)	
8-(4)	財務情報公開の体制を整備し、適正に運用しているか	3.1	↗ 3.2	事務局 (経理課)	
【課題】			【今後の改善方策】		
8-(1) 8-(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・18歳人口減などの影響で減収がみられる。 ・学生の充足率の低下に伴う財源の確保。 ・財政基盤は入学者数と退学者数に影響を受けること。 <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化設備の更新、新規設備の今後の管理の見通し、ICT導入について等、計画を整理する必要がある。 			<ul style="list-style-type: none"> ・学生数を増やす。退学者をなくす。 ・仕事や学校の魅力を発信することや、学内の環境整備、広報活動に重点を置くこと、高校や保護者・学生の信頼を得ていくことで出願者増加につなげていく。 ・予算作成に際して減収や不況に備えて支出の抑制とコスト削減（裏紙の利用促進等）を行っていく。 ・設備関係の整備計画を立てる。物品によっては、事務・教員それぞれの知識や理解が必要なので協力して進める。 	
【成果・特記事項】					
8-(3) 8-(4)	・会計士に決算書作成を依頼し会計監査も適正に行われている。財務情報の公開もなされている。				

9. 法令等の遵守

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
9-(1)	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	3.5	↘ 3.4	事務局	評価 3.2 ・PCデータ保護や個人情報管理に詳しい専門家を招いて、定期的な研修を実施され
9-(2)	学生および職員の個人情報について閲覧権限等の設定がされ、個人情報保護の対策が講じられているか	3.1	→ 3.1	事務局 (庶務課)	

9-(3)	文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)、決裁規程(文書処理規程)、公印管理規程が文書化されているか	3.1	↗	3.2	事務局 (庶務課)	たら良いと思います。また、その業務についての内部監査員を育成すれば全体的なレベルアップも図れると思います。 ・適切に遵守されていると思います。	
9-(4)	自己点検・評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	3.7	→	3.7	自己評価委員会		
9-(5)	自己点検・評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか	3.4	↘	3.2	自己評価委員会		
9-(6)	自己点検・評価結果を公表しているか	3.8	↘	3.7	自己評価委員会		
9-(7)	学校関係者評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	3.7	↘	3.6	自己評価委員会		
9-(8)	学校関係者評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか	3.4	↘	3.3	自己評価委員会		
9-(9)	学校関係者評価結果を公表しているか	3.8	↘	3.7	自己評価委員会		
【課題】			【今後の改善方策】				
9-(1) 9-(2)	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報管理体制は整備されてきているが、対象となる資料の範囲等についての知識が十分とは言えない。 予測できない機器破損等によるデータの消失が起こることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報管理について全職員が一年に一度必ず研修(e-ラーニングを含む)を受講する。 閲覧の制限やパスワードの設置等の対策、閲覧ルール(マニュアル)の整備をすすめる。 データのバックアップなど管理を習慣化する。 					
9-(4) ~(9)	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に評価(自己点検・評価、学校関係者評価)は実施されているが、施策がわかりにくい部分もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 優先順位をつけて改善に取り組む。 目標到達や改善策の実施に関する奨励制度(金銭的な内容でなく、教職員に周知できるような制度)があるとよいのかと思う。 自己点検・評価表の項目について、各担当委員会に対し上半期終了時点で到達度合いを中間評価する。 					
【成果・特記事項】							
9全般	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価委員会が自己点検・評価および学校関係者評価を定期的実施して結果をホームページに公表している。また一連の業務は定型・定例化されているものも多い。 						

10. 社会貢献・地域貢献

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
-------------	----	------	-------	----------------

10-(1)	学校の教育資源や施設を提供し、社会貢献・地域貢献を行っているか	3.3	⇩ 3.2	事務局	評価 3.3 ・理学療法士・作業療法士の育成自体が地域貢献の一つと云えると思います。志を持った学生の育成をお願いします。なお、地域ボランティアについては無理強いにならないよう、敷居が低いものでも良いと思います。学生時代にボランティア活動を知ること自体が有意義でもありますし、卒業し働いていく中で社会貢献などの意識は職業柄高くなると思います。 ・感染対策が確立されていればボランティア等可能ではないかと思います。 ・茶話会への参加が新聞に取り上げられており、良いきっかけ作りかと思います。 ・限られた時間、資源の中で効果をあげておられると思います。
10-(2)	地域に対する生涯学習事業（公開講座、教職員の出張講座）の提供や教育訓練（公共職業訓練を含む）の受託等を実施しているか	3.2	⇩ 3.1	教員広報委員会	
【課題】			【今後の改善方策】		
10-(1)	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動内容が学外からは見えづらい。 教育資源・施設の地域への提供の機会を持ちにくい。 社会貢献への意識の低下は社会全体の傾向として見られるが、本校でも学校全体、学生全体として弱いように思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育資源・施設の提供についてニーズを検証して行事ごと見直す。 社会貢献・地域貢献意識を全学生が持つよう促しを行う。 			
10-(2)	<ul style="list-style-type: none"> 茶話会を通して出張講座を行い取り組みは増えたが、今後、複数の教員が関わる体制を整える。 地域との交流がまだ限られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座を茶話会等で案内して地域の方々に学校へ来ていただく。 実施予定表などで実施状況を共有し、教職員の参加を促す。 地域との連携について話し合い教職員が協力して進める。 			
【成果・特記事項】					
10-(1) 10-(2)	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の茶話会の参加や雪かきボランティアの体制など学生会活動によって貢献している。町会連合会の新年会へ教員が参加するなど徐々に地域との交流機会が増えている。 金沢市の中学校の職業紹介事業において、出張講座を受託して教員を派遣した。事務局では公共職業安定所の職業訓練生の実習を受託している。 				